

このままでは
小高の農地が
だめになってしまう

さとう りょういち 佐藤 良一

株式会社紅梅夢ファーム 代表取締役

昭和28年（1953）、南相馬市小高区生まれ。

専業農家の9代目。神奈川県での会社員を経て、24歳の時に帰郷して就農。

旧小高町議会議員を4期務めたほか、集落営農組織連絡協議会会長、

農業委員も務める。2017年、紅梅夢ファーム設立。

震災前、小高区の15の集落営農組織が水稻、大豆、花卉栽培などを行っていました。

しかし原発事故による全戸避難で、雑草が伸び、土地は荒れ放題に。

「このままでは農地がだめになってしまう」と不安になりました。

2012年に「ふるさと小高区地域農業復興組合」を立ち上げ、有志を募って
がれき撤去と草刈り作業を行ってきました。同年4月には、警戒区域で初めての
コメの試験栽培を始めました。その結果は線量が低く、営農再開に光が見えた
と思いました。2016年に小高区の避難指示は解除されましたが、津波被害や
高齢化による離農、避難先から戻らず…。もとの営農に戻すことは困難な状況。
そのような中で立ち上げたのが紅梅夢ファームです。

営農再開の起爆剤にと、7つの集落営農組織の出資によってスタート。

地元の農業高校や大学卒の若者を採用し、農業の新しい姿を模索しています。

いち早くロボットトラクターを導入、スマート農業実証プロジェクトに採択され、
データ管理による農業の実践にも取り組んでいます。

コメ、大豆、タマネギ、菜種、ストックを生産し、耕作面積は4年で70haまで拡大。
若者が作業する姿が刺激になり、地域に活気が戻りつつある手応えを感じています。



小型無人機（ドローン）を使い、
農地に農業散布を行っている